

令和4年度 事業報告について

「2025年問題」とは、いわゆる団塊の世代のすべてが75歳以上となる2025年以降に発生すると予想される、さまざまな問題を指す言葉です。

全人口の約18%が後期高齢者という超高齢化社会では、年金や医療、福祉などを合わせた社会保障給付費が一気に増大し、社会福祉制度の維持が困難になる一方、生産年齢人口(15歳～64歳)は1997年(平成9年)の8,697万人から25年で7,393万人と1,300万人以上減少しています。

また、高年齢者雇用安定法の改正により定年制の廃止や70歳までの継続雇用制度等を努力義務としたことで、離職者数が減少傾向にあります。

令和4年度当初のセンター会員数は、前年度の退会者が直近10年で最多となる70人となり、新規入会者の確保が喫緊の課題となりました。役員による普及啓発活動に加えて、新たに現会員から友人・知人の方々に入会勧誘を実施したところ、大きな効果となり対前年を上回る会員数を確保することができました。

他方、新型コロナウイルス感染症は、第6波以降に感染力は強いが重症化リスクが低いといわれるオミクロン株に移行した中で、ワクチン接種が進展していることから、政府はウィズコロナの下で社会経済活動の再開・継続を図る方針が打ち出され、決算でも受託事業においてはコロナ禍の影響を大きく受けた令和2年度比では9%以上の伸び率となっており、当センターの業績はほぼ回復したものといえるでしょう。

本年度の受託事業実績は受託件数で2,202件となりました。就業延人数は36,140人で0.8%増、就業率は79.0%で前年比0.1ポイント減少しました。

契約金額は1億3,926万円余りで、内訳は公共関係で約4,544万円、民間事業所で約5,941万円、一般家庭で約3,317万円、独自事業で約124万円となり、対前年度約375万円の増額となりました。

労働者派遣事業においては、契約件数210件で、就業延人数は13,446人、契約額は5,855万円余りとなりました。内訳では公共関係で約3,557万円、民間事業所で約2,298万円となりました。今後も引き続き適正な就業先の確保を念頭に努めていく必要があると考えています。

また、会員の働きやすい環境と安全性を高めるために職群班との連絡調整にも配慮しながら円滑な運営に努めました。

会員数については、前年度末430名に対し、令和4年度末は434名と4名増加しました。会員全体の平均年齢は74.5歳と前年度に比べ若干上がっています。男女別では男性が74.8歳、女性が73.9歳で、会員の最高年齢は90歳です。粗入会率は市の60歳以上の人口15,717人に対し2.76%となっています。

以下、事業実施状況の概要を報告いたします。

1. 会員の加入状況

単位：人

区 分	男	女	計	摘 要
平成4年3月31日	266	164	430	
中途入会者数	43	24	67	
中途退会者数	42	21	63	
差引き増減	1	3	4	
令和5年3月31日	267	167	434	対前年4人増

(地区別会員数)

単位：人

区 分	男	女	計	摘 要
根上地区	99	87	186	
寺井地区	89	47	136	
辰口地区	79	33	112	
計	267	167	434	

2. 受託事業の実績

区 分	令和4年度	令和3年度	差 引	前年度比
受注件数 (件)	2,202	2,079	123	5.9%
就業延人数 (人)	36,140	35,851	289	0.8%
契約金額 (円)	139,265,919	135,507,883	3,758,036	2.7%
就 業 率 (%)	79.0	79.1	△0.1	△0.1%

(契約金額の内訳)

単位：千円

区 分	令和4年度	令和3年度	差 引	前年度比
公 共	45,442	42,712	2,730	6.3%
民間事業所	59,409	54,068	5,341	9.8%
一般家庭	33,173	37,144	△3,971	△10.6%
独自事業	1,241	1,583	△342	△21.6%
合 計	139,265	135,507	3,758	2.7%

3. 労働者派遣事業の実績

区 分	令和4年度	令和3年度	差 引	前年度比
契約件数 (件)	210	174	36	20.6%
就業延人数 (人)	13,446	13,618	△172	△1.2%
契約金額 (円)	58,556,548	58,760,310	△203,762	△0.3%

(契約金額の内訳)

単位：千円

区 分	令和4年度	令和3年度	差 引	前年度比
公 共	35,573	33,172	2,401	7.2%
民間事業所	22,983	25,588	△2,605	△10.2%
合 計	58,556	58,760	△204	△0.3%

4. 安全・適正就業の徹底

(1) 会員の安全・適正就業の向上

屋外技能作業班の会員を対象に安全パトロールを実施しました。

(2) マイクロバス安全運転研修会の実施

マイクロバスを運転する場合、加齢によって生ずる体力の衰えが反射神経や動体視力等に影響します。不注意、油断等に起因する事故を防止するために、七尾自動車学校の教官を講師に迎え、人的輸送業務に携わる会員12名が安全運転研修を受講しました。

(3) 事故発生件数

事故件数は17件と前年度比△3件でした。

重篤な事故は発生しませんでした。少しの気の緩みで重大な結果になりうることもあるので、無理をせずに安全を確認して作業に携わることを心掛けていくことが重要です。事故件数の上位を占める刈払機による飛び石事故には、十分注意しながら事前の安全確保をしながら作業にかかるよう注意喚起をしました。

事故発生件数

傷害保険事故	7件
賠償責任保険事故	5件
その他事故	5件

5. 普及啓発活動の推進

シルバー人材センターの啓発宣伝とボランティア活動を兼ねて下記の活動を実施しました。

- (1) スポーツフェスティバル in 寺井やスーパーマーケット、老人会研修会場で役員等による会員勧誘を実施しました。また全会員から友人・知人に入会勧誘のポスティングを行ってもらいました。
- (2) 『感謝祭』は、前年に続いて「すぱーく寺井」を会場として丸いも・ゆず・自家製野菜の販売に加えて、つくたて餅の無料配布を行いました。来場者は445名でした。
- (3) 12月28日に各地区会員が門松づくりを行い、市役所本庁舎、能美警察署、能美ふるさとミュージアム、根上総合文化会館、寺井地区公民館、辰口福祉会館、里山の湯、センター事務所の8カ所に門松を設置しました。新聞記事にも取り上げられ、センター事業の啓発とPRに効果がありました。
- (4) 能美市の地域振興作物のひとつである「国造ゆず」は、後継者不足等が課題で安定的な生産につながっていないことから、シルバー会員有志による同好会が市農林課と連携しながら生産組合の下支えを図っていますが、昨夏の豪雨による土砂崩れで果樹の被害が大きく、復旧に時間を要することが懸念されます。
- (5) 毎月第2・第4金曜日に、ハローワーク小松において会員勧誘を兼ねて事務局職員が出張相談を行い、22回で52名となりました。

6. 独自事業「加賀丸いも」栽培の実施

加賀丸いも栽培は、41アールの作付け分の収穫を終えました。

丸いも出荷量はJA根上へ768kg、個人・団体の顧客には1,243kgを販売し、ほぼ全収量を完売することが出来ました。売上額は1,548,330円となりました。